平成20年度文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）
『サンゴ礁学―複合ストレス下の生態系と人の共生・共存未来戦略』主催

一般公開シンポジウム

暮らしの中のサンゴ礁

サンゴと人がひらく南島の人類誌

人とサンゴ（礁）のかかわり合いを遠い過去から現在、そして未来まで、考古学・文化人類学・形質人類学・地球科学・地理学・環境学をはじめとする諸学の研究者が、皆さんとともに語り合います。

さぁ今ここに、新しい「共生」のかたちをめぐる対話の幕開けです。どうぞお気軽にお越しください。

会場

沖縄県立博物館・美術館講堂（沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号）

◎入場無料
◎事前予約不要
◎当日先着順（全212席）

日時

2013年3月30日（土）
13:00～17:30（12:30開場）

13:00–13:30　プロローグ「暮らしの中のサンゴ礁」司会：山口徹
サンゴ礁を学ぶ―人とサンゴ礁との共存・共生未来戦略
／茅根 創（東京大学）

13:30–14:30　セッションA「サンゴを忘れた暮らし」司会：山野 博哉
①変質しつつある現代の島嶼地域社会から見たサンゴ礁保全上の課題
／灘岡 和夫（東京工業大学）
②陸の変化と海の変化―空からの目とサンゴの記録
／山野 博哉（国立環境研究所）
③つながる陸と海―先史農耕による内陸開発の影響
／山口 徹（慶應義塾大学）

14:30–15:00　休憩

15:00–16:20　セッションB「サンゴとある暮らし」司会：深山 直子
④サンゴを眺める?サンゴとかかわる?―石垣島「エコツーリズム」の調査から
／下田 健太郎（慶應義塾大学大学院）
⑤サンゴの伝統的利用―石垣島における左官の事例を中心に
／深山 直子（東京経済大学）
⑥サンゴって食べれるの?―サンゴの人体への恵みを考える
／吉田 俊爾（日本歯科大学）
⑦人とサンゴが共生（ともいき）するかたち―ソロモン諸島のサンゴ人工島社会を手掛かりに
／棚橋 訓（お茶の水女子大学）

16:20–17:30　ポリローグ「サンゴと人のこれから」司会：山口 徹
《コメンテーター（50音順）》
佐藤 孝雄（慶應義塾大学・考古学）
鈴木 隆雄（国立長寿医療研究センター・老年学）
西平 守孝（沖縄美ら島財団・生態学）
渡邊 欣雄（國學院大學・社会人類学）

主　催：平成20年度文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）
『サンゴ礁学―複合ストレス下の生態系と人の共生・共存未来戦略』
事務局：慶應義塾大学文学部・山口徹研究室
連絡先：電　話　03-3453-4511（内線23366）
住　所　〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
Eメール　coralreefscience@ml.keio.jp
後　援：日本サンゴ礁学会・日本オセアニア学会

一般公開シンポジウム

暮らしの中のサンゴ礁

サンゴと人がひらく南島の人類誌

2013年3月30日（土）13:00〜17:30（12:30開場）　沖縄県立博物館・美術館 講堂

◎入場無料 ◎事前予約不要 ◎当日先着順（全212席）

シンポジウム開催にあたって

南の島の海には、色とりどりのサンゴが生きています。その形も、枝状やテーブル状、丸いかたまりなどさまざまで、たくさんのサカナやカニなどの住処になっています。サンゴ礁はそこに棲む生き物の多様性から、熱帯雨林にも例えられ、だからこそサンゴ礁の保全活動も盛んになってきています。

それでも、島に暮らすすべての人びとが、サンゴに特別な関心をもっているわけではありません。もちろん、漁業をはじめとしてサンゴ礁の恵みを利用する生業（なりわい）は確かに昔からありますが、その一方でサンゴなど気にかけない暮らし方もあります。最近では、程度の差こそあれ、遠い昔から人の活動がサンゴに影響を及ぼしてきたこともわかってきました。

それでは、より多くの人びとがサンゴ（礁）に関心をもち、さらには島の環境と豊かな関係を結ぶためには、どうしたらいいのでしょうか。文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）『サンゴ礁学』では、文理の枠を跳びこえて、このむずかしい課題に取り組んできました。考古学・文化人類学・形質人類学・地球科学・地理学・環境学といった諸学の研究者がその成果を持ちよって、人とサンゴ（礁）のかかわり合いを遠い過去から現在まで見とおし、「共生」のこれからについて、皆さんとともに語り合いたいと思います。

講演者（講演順）

◎茅根 創（かやね・はじめ）

東京大学大学院理学系研究科教授。1959年東京生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。地球惑星システム学専攻。日本・沖縄、パラオ、マジュロ諸島、ツバルにて調査。著書・論文に「サンゴ礁と地球温暖化（『サンゴ礁学—未知なる世界への招待』、東海大学出版会、2011）、"Rapid settlement of Majuro atoll, central Pacific, following its emergence at 2000 years CalBP"（主著、*Geophysical Research Letters* 38, 2011）等。

◎灘岡 和夫（なだおか・かずお）

東京工業大学大学院情報理工学研究科教授。1954年広島生まれ。東京工業大学大学院修士課程修了、工学博士。水圏環境学、沿岸生態系保全・統合沿岸管理研究、情報環境学専攻。日本・沖縄、フィリピン、インドネシア、パラオ、フィジーにて調査。著書・論文に「サンゴ礁環境のダイナミクス」（『サンゴ礁学—未知なる世界への招待』、東海大学出版会、2011）等。

◎山野 博哉（やまの・ひろや）

国立環境研究所主任研究員。1970年兵庫生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士（理学）。自然地理学専攻。日本、パラオ、オーストラリア、マーシャル諸島、ツバル、ニューカレドニア、仏領ポリネシア、韓国、タイ、キリバス、モルディブにて調査。著書・論文に「サンゴの海を調べる」（『サンゴ礁学—未知なる世界への招待』、東海大学出版会、2011）、"Atoll island vulnerability to flooding and inundation revealed by historical reconstruction: Fongafale Islet, Funafuti Atoll, Tuvalu"（主著、*Global and Planetary Change* 57, 2007）等。

◎山口 徹（やまぐち・とおる）

慶應義塾大学文学部教授。1963年福岡生まれ。慶應義塾大学大学院修了、オークランド大学大学院修了。博士（人類学）。考古学、ジオアーケオロジー専攻。仏領ポリネシア、クック諸島、マーシャル諸島、ツバル、日本・石垣にて調査。著書・論文に「高い島と低い島—歴史生態学の視点から（『オセアニア学』、京大出版、2009）、"Archaeological investigation of the landscape history of an Oceanic atoll: Majuro, Marshall Islands"（*Pacific Science* 63, 2009）等。

◎下田 健太郎（しもだ・けんたろう）

慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程在学、日本学術振興会特別研究員（DC）。1984年東京生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。修士（史学）。文化人類学、物質文化研究専攻。日本・水俣、石垣、マーシャル諸島にて調査。著書・論文に、「水俣病の景観史研究にむけた予察—水俣湾埋立地をめぐる文書内容の継時的変化から」（『史学』78巻1・2号、2009）、「モノによる歴史構築の実践—水俣の景観に立つ52体の石像たち」（『文化人類学研究』12巻、2011）等。

◎深山 直子（ふかやま・なおこ）

東京経済大学コミュニケーション学部専任講師。1976年東京生まれ。東京都立大学大学院修了、博士（社会人類学）。社会人類学、オセアニア地域研究、先住民研究専攻。ニュージーランド、ツバル、マーシャル諸島、日本・沖縄にて調査。著書・論文に『現代マオリと「先住民の運動」—土地・海・都市そして環境』（風響社、2012）、「沖縄・久米島町字儀間における市の試み」（『民俗文化研究』11号、2011）等。

◎吉田 俊爾（よしだ・しゅんじ）

日本歯科大学生命歯学部准教授。1947年埼玉生まれ。北里大学衛生学部卒業、博士（歯学）。形質人類学、人体解剖学専攻。ソロモン諸島、クック諸島、マーシャル諸島にて調査。著書・論文に「クック諸島出土ポリネシア人の人類学的研究—プカプカ環礁先史時代人頭蓋について（『歯学』86巻4号、1999）等。

◎棚橋 訓（たなはし・さとし）

お茶の水女子大学大学院人間科学系教授。1960年東京生まれ。東京都立大学大学院修了、博士（社会人類学）。社会人類学、オセアニア地域研究専攻。ソロモン諸島、クック諸島、マーシャル諸島、ニュージーランド等のオセアニア世界にて調査。著書・論文に『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語　第15巻オセアニア』（共著、朝倉書店、2010）等。

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号　代表tel：098-941-8200

◎路線バス／おもろまち駅前下車（琉球バス、沖縄バス、那覇交通）

◎中北部から／空港線及びおもろまち行各社バスで交通広場下車 徒歩5分

◎南部から／バスターミナルから沖縄モノレール乗り換えおもろまち下車 徒歩10分

◎空港から／沖縄モノレール：おもろまち下車 徒歩10分　タクシー：博物館・美術館まで約30分

＊公共交通機関をご利用ください　＊館内で飲食はできません

主　催：平成20年度文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）
『サンゴ礁学—複合ストレス下の生態系と人の共生・共存未来戦略』

事務局：慶應義塾大学文学部・山口徹研究室

連絡先：電　話　03-3453-4511（内線23366）
住　所　〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
Eメール　coralreefscience@ml.keio.jp

後　援：日本サンゴ礁学会・日本オセアニア学会